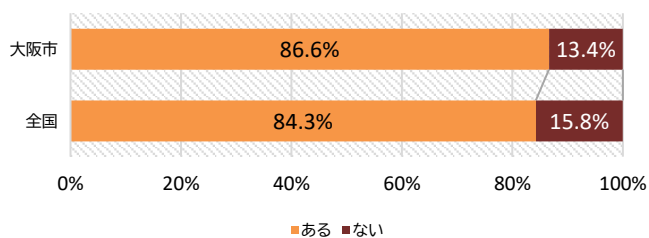
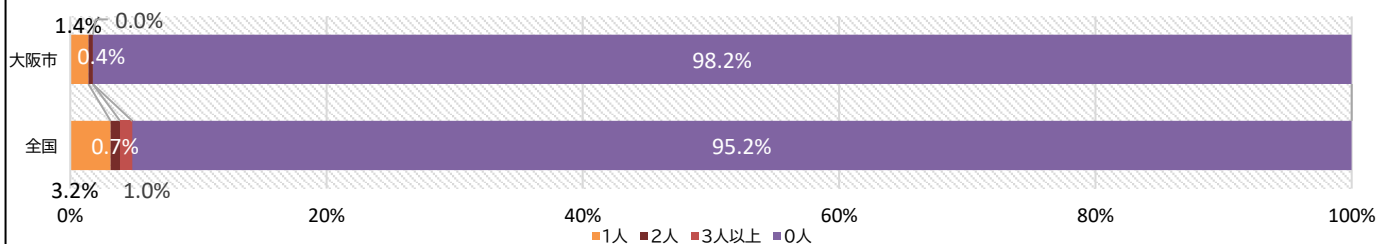


7 学校の組織体制(教職員の協働体制、情報共有、人的配置など)

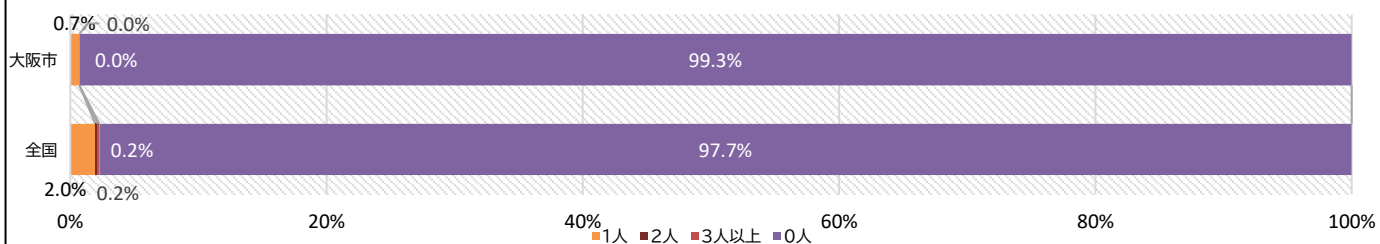
20 教員同士での取組、指導方法の工夫・改善の検討機会



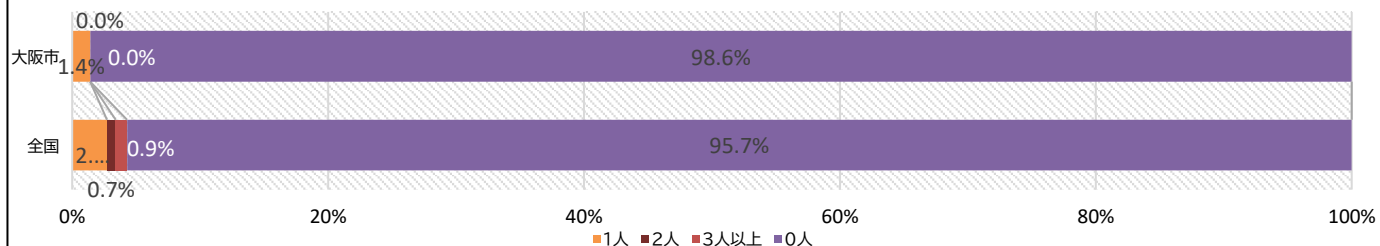
20 体育専科教員の配置状況(令和3年度 常勤)



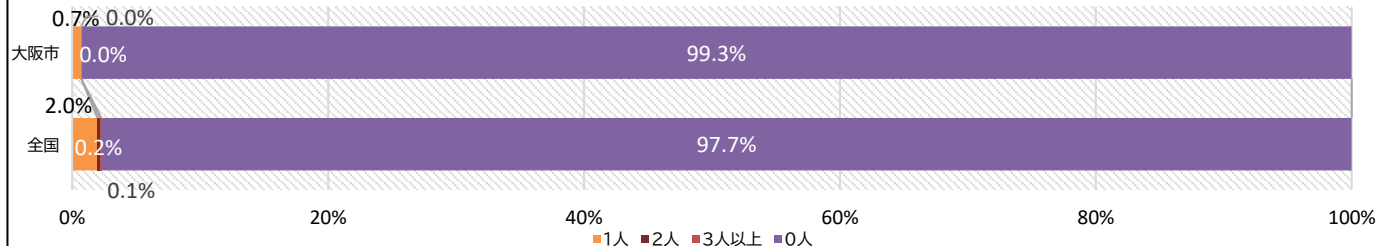
20 体育専科教員の配置状況(令和3年度 非常勤)



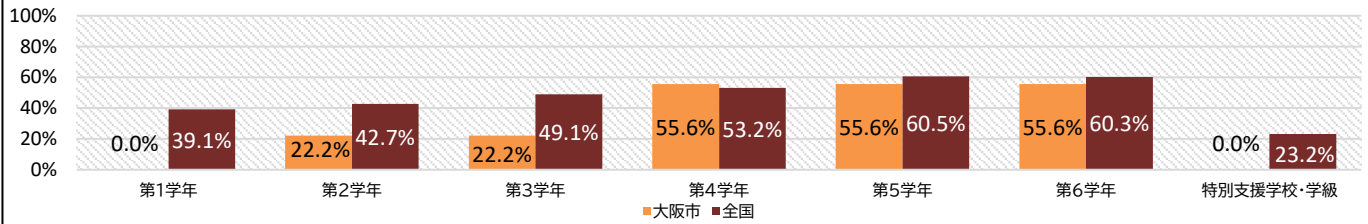
21 体育専科教員の配置状況(令和2年度 常勤)



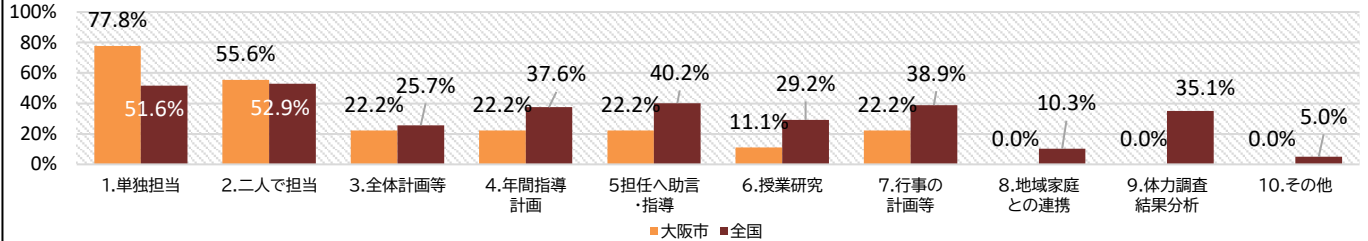
21 体育専科教員の配置状況(令和2年度 非常勤)



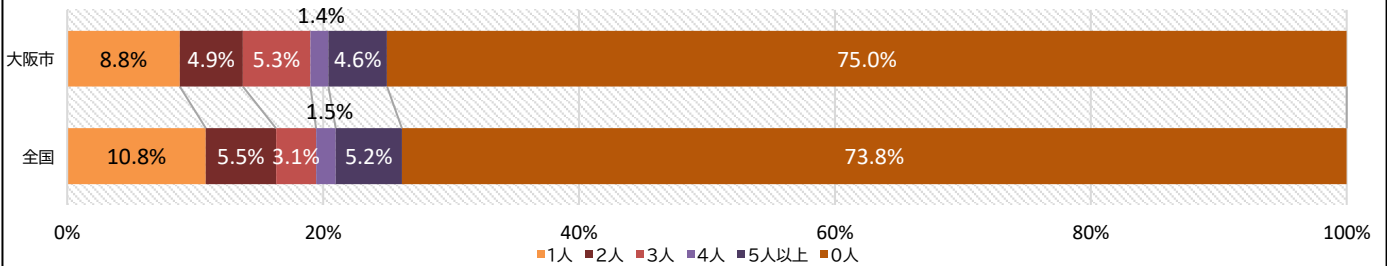
21-2 体育専科教員の体育科授業担当学年(複数回答可)



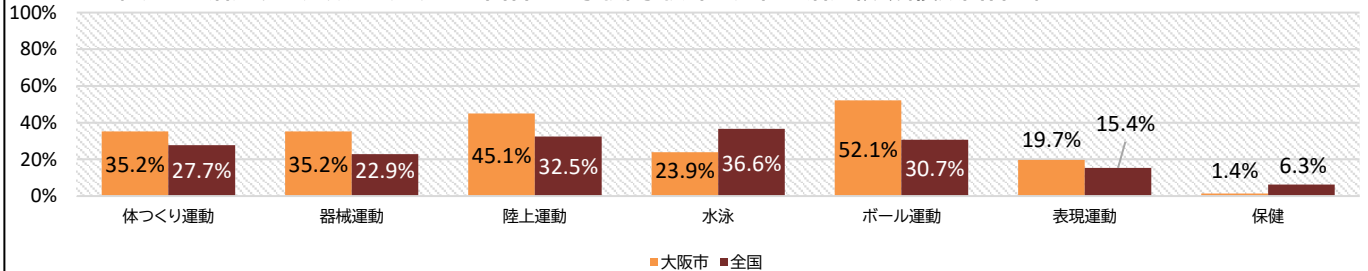
21-3 体育専科教員の具体的な業務内容(複数回答可)



22 学校外の人材の活用人数



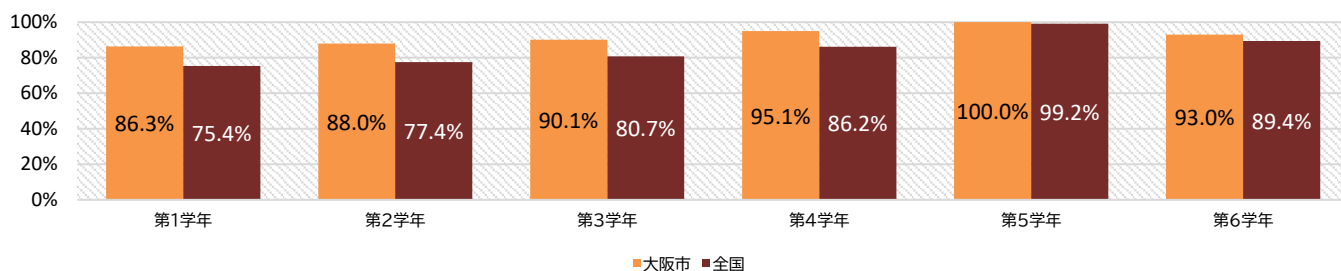
22-2 (Q22で活用する人数が1人以上と回答した学校)学校外の人材の活用領域(複数回答可)



- 教員同士の取組、指導方法の工夫・改善についての検討機会が「ある」学校の割合は、全国と比べて高かった。
- 体育科教員の配置状況は、全国と比べて低かった。
- 学校外の人材を活用している学校の割合は、全国と比べて低かった。

8 新体力テストの実施状況

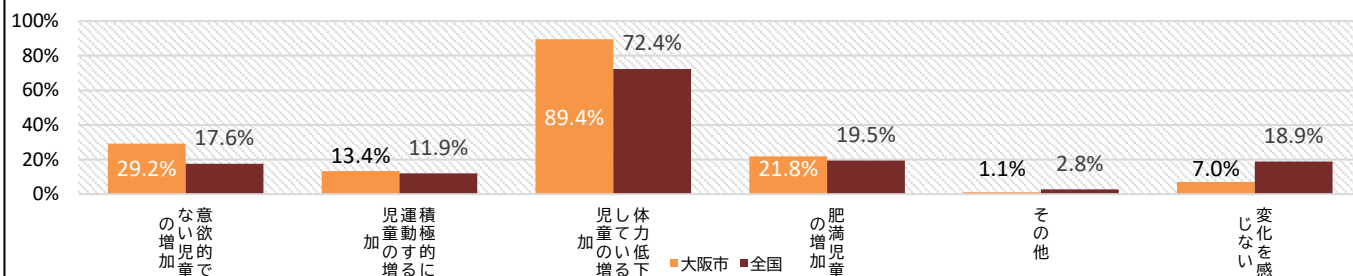
23 実施学年(複数回答可)



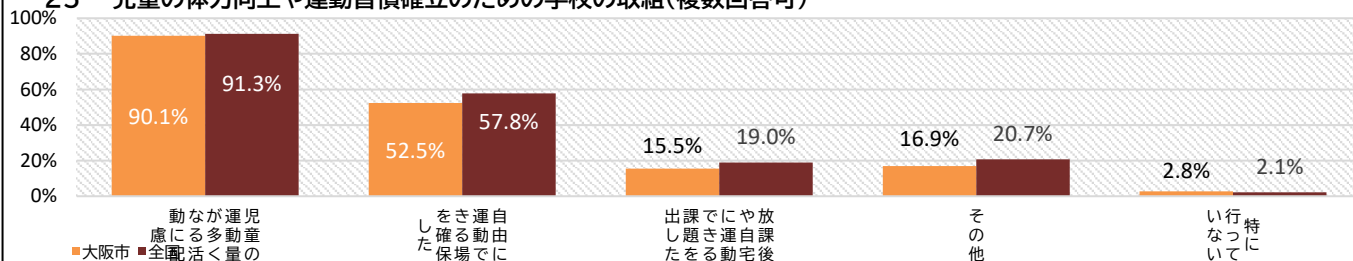
○各学年において、新体力テストに取り組んでいる学校の割合は、全国と比べて高かった。

9新型コロナウイルス感染症の影響前と現在の児童の変化・休業期間終了以降の学校の取組

24 コロナウイルス感染症の影響前と現在を比較した児童の変化(複数回答可)



25 児童の体力向上や運動習慣確立のための学校の取組(複数回答可)



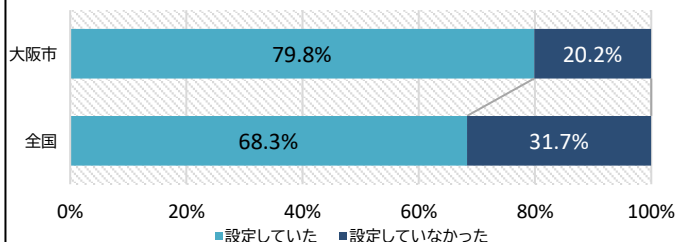
○新型コロナウイルス感染症の影響前と現在を比較して、「体力が低下している児童が増えた」と感じている割合が、全国と比べて高かった。

○児童の体力向上や運動習慣の確立のための学校の取組は、「児童の運動量が多くなる活動に配慮」したり、「自由に運動できる場を確保した」割合が、多かった。

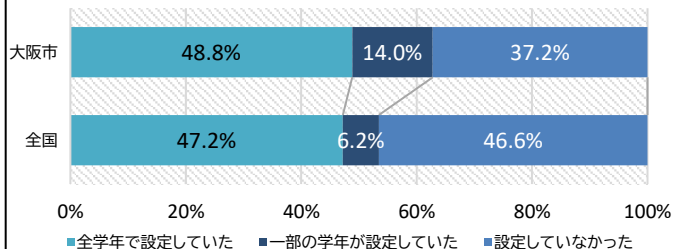
学校質問紙調査(中学校)

1 生徒の体力・運動能力向上に係る取組について

1 前年度、学校全体の体力・運動能力向上の目標設定



2 前年度、学年としての体力・運動能力向上の目標設定

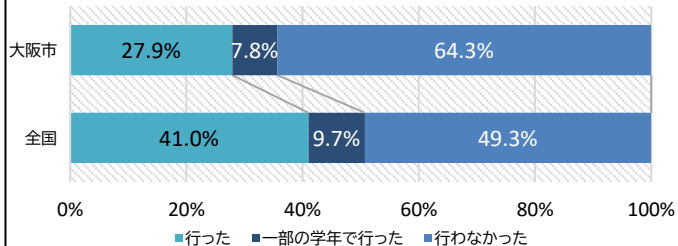


○学校全体の体力・運動能力向上の目標設定をしていた学校の割合は、全国と比べて高かった。

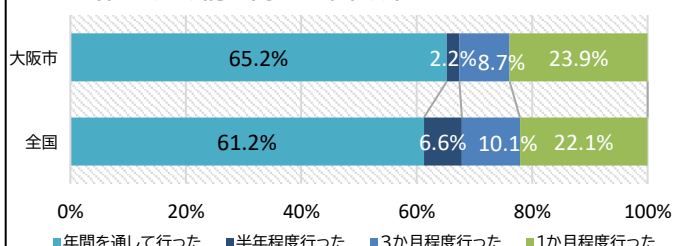
○学年の体力・運動能力向上の目標設定をしていた学校の割合についても、全国と比べて高かった。

2 保健体育授業以外での体力・運動能力の向上に係る取組

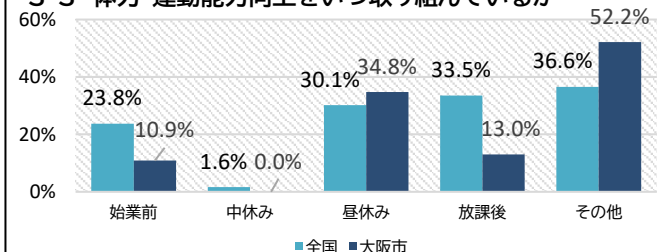
3 体育の授業以外での体力・運動能力向上の取組



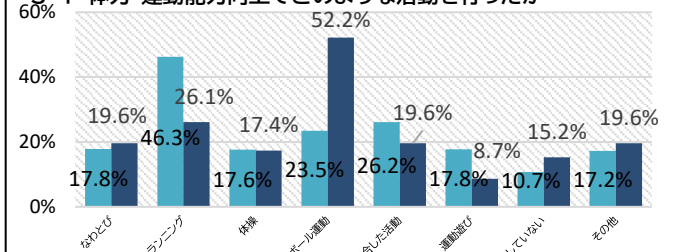
3-2 体力・運動能力向上の取組期間



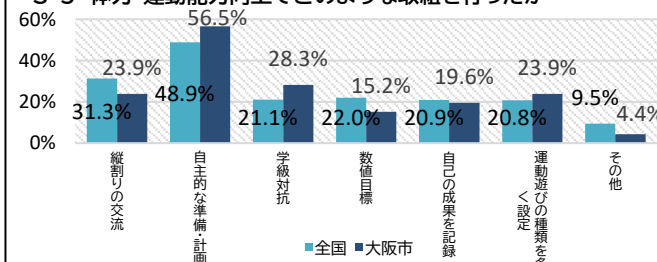
3-3 体力・運動能力向上をいつ取り組んでいるか



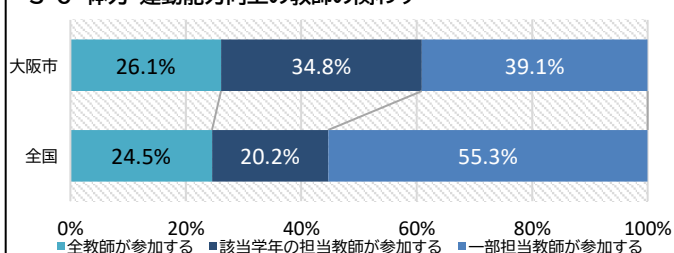
3-4 体力・運動能力向上でどのような活動を行ったか



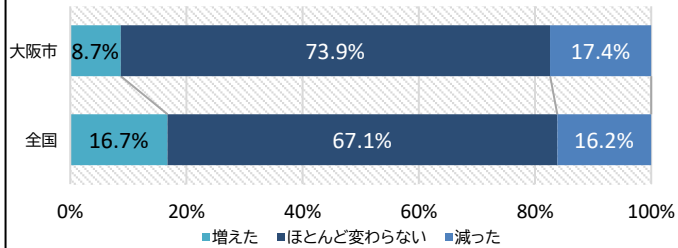
3-5 体力・運動能力向上でどのような取組を行ったか



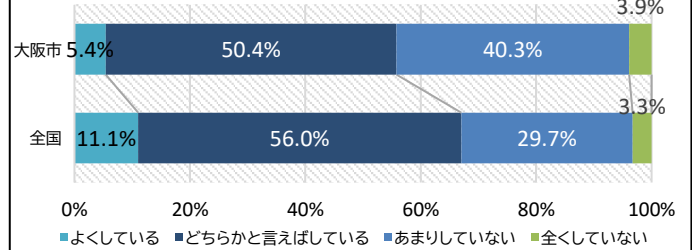
3-6 体力・運動能力向上の教師の関わり



3-7 体力・運動能力向上の前年度との比較



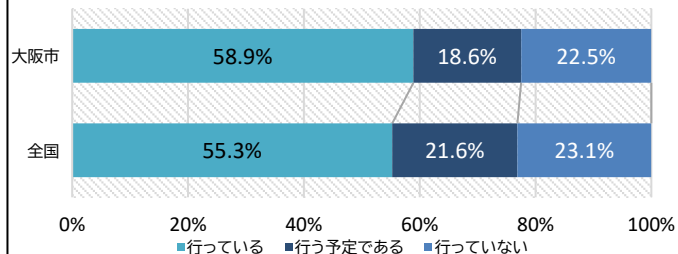
4 自校の体力・運動能力向上の取組の反映



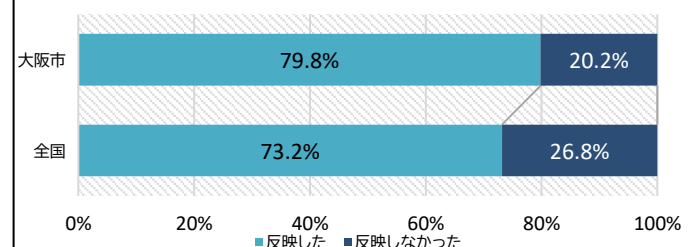
- 保健体育授業以外の体力・運動能力向上を年間を通じて行った取組が、全国と比べて高かった。
- 保健体育・運動能力の向上の教師の関わりについて、全国に比べて高かった。
- 体力・運動能力の向上は、大阪市では「昼休み」に取り組むことが多く、「ボール運動」などの活動をする学校が多い。また、自主的に準備・計画をさせるなどの取組を行う学校が多い。

3 学校の保健体育授業について

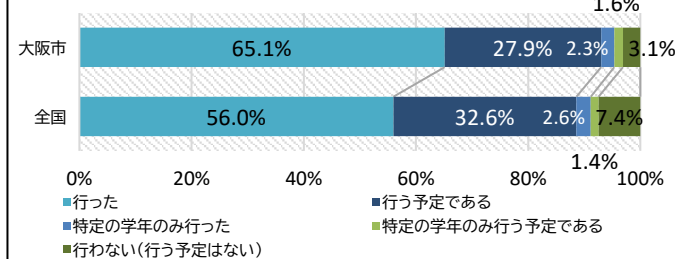
5 運動・スポーツが苦手な生徒向け取組、性別に応じた取組



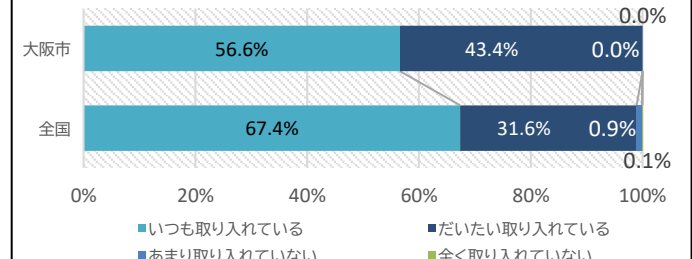
6 調査結果を踏まえた年間指導計画の改善



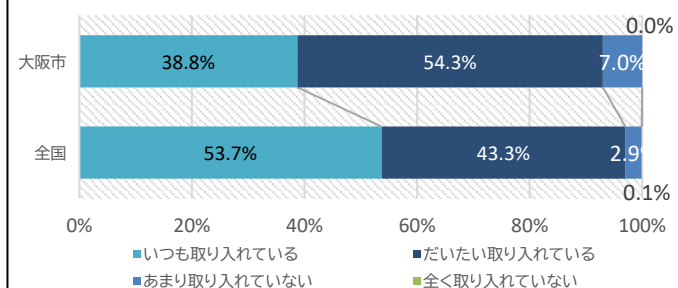
7 調査結果を踏まえた授業等の工夫・改善



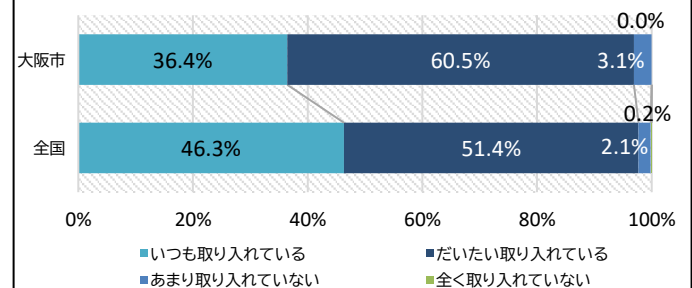
8 保健体育授業の目標を生徒に示す活動



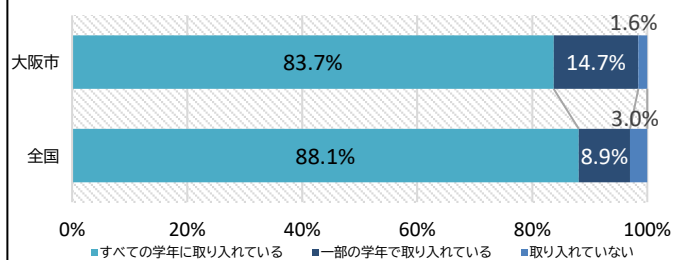
9 保健体育授業で学習したことを振り返る活動



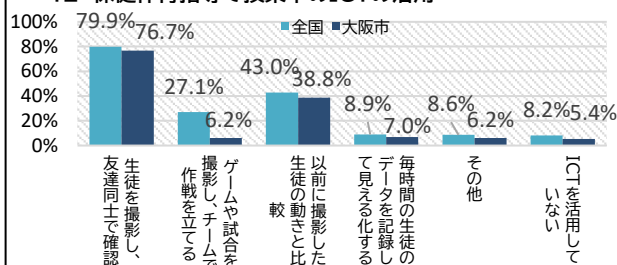
10 保健体育授業で生徒同士が助け合い、役割を果たす活動



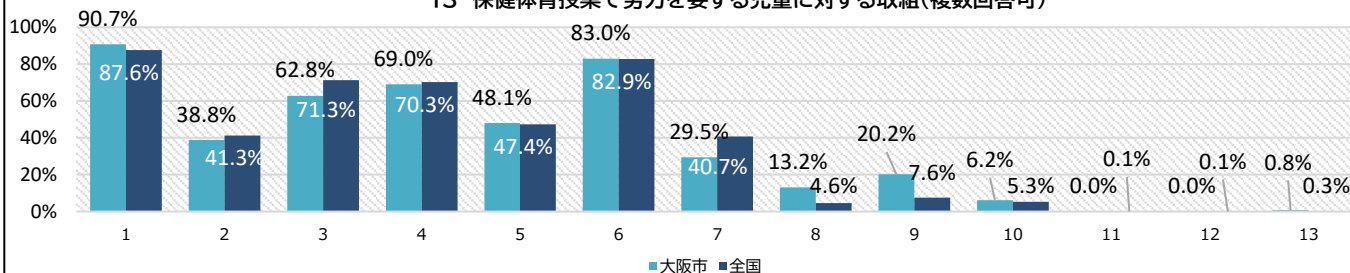
11 保健体育授業で生徒同士が話し合う活動



12 保健体育指導で授業中のICTの活用



13 保健体育授業で努力を要する児童に対する取組(複数回答可)



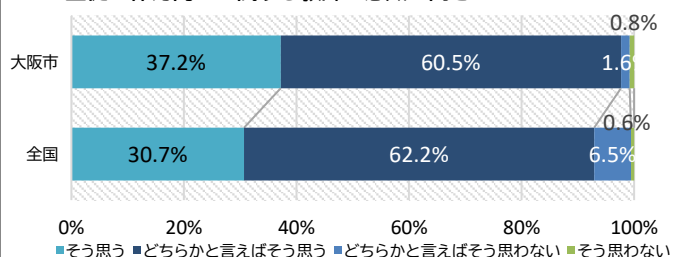
質問13 選択項目

- | | |
|--------------------------------|-------------------------------|
| 1 授業中に先生に個別にコツやポイントを重点的に教えている | 2 授業中に生徒自ら工夫して行えるようにしている |
| 3 その児童に合った場やルール等で行えるようにしている | 4 生徒の実態に応じ、運動課題を段階的に準備している |
| 5 教員や友達のまねを促している | 6 友達同士で教え合いを促している |
| 7 授業中に自分の動きを撮影した映像を見られるようにしている | 8 授業外の時間にも教えている |
| 9 授業外の時間に生徒自ら練習するよう促している | 10 授業外の時間に生徒が本や映像を見られるようにしている |
| 11 特にしていない | 12 努力を要する生徒はいない |

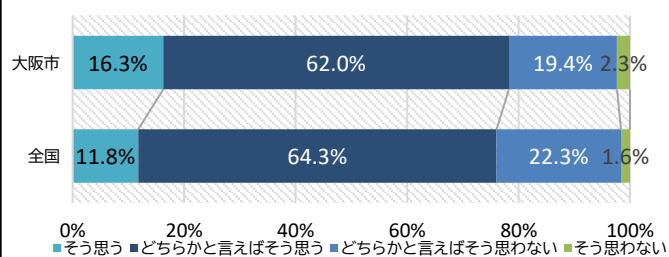
- 運動やスポーツが苦手な生徒向けの取組、性別に応じた取組では、全国と比べて高かった。
- 調査結果を踏まえた年間指導計画の改善及び授業等の工夫・改善に取り組んだ学校の割合は、全国と比べて高かった。
- 保健体育授業において、「目標を示す」「振り返る」「生徒同士で助け合う」の活動に「いつも取り入れる」もしくは「だいたい取り入れている」学校が多く、「生徒同士で話し合う」の活動についても「すべての学年」もしくは「一部の学年」で取り入れられている。
- 保健体育の授業で努力を要する生徒に対する取組では、「授業中に先生が個別にコツやポイントを重点的に教えている」「友達同士で教え合いを促している」学校が多かった。
- 保健体育の授業において、ICT機器を活用している学校の割合が多い。

4 体力向上に関する教師の意識・児童家庭の関心

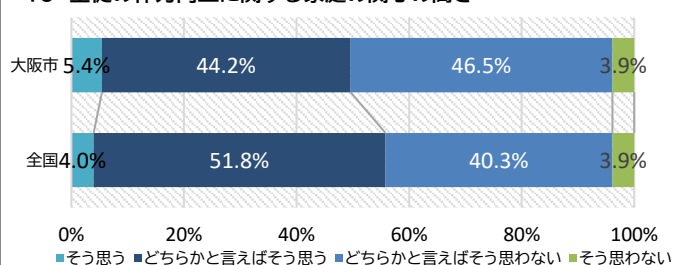
14 生徒の体力向上に関する教師の意識の高さ



15 生徒の体力向上に関する生徒の関心の高さ



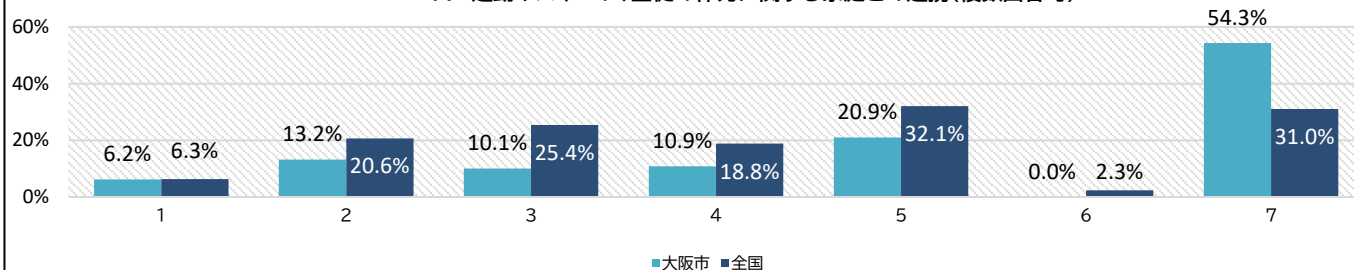
16 生徒の体力向上に関する家庭の関心の高さ



- 児童の体力向上に関する教師の意識は、全国と比べて高かった。
- 児童の体力向上に関する児童の関心の高さは、全国と比べて高かった。
- 児童の体力向上に関する家庭の関心の高さは、全国と比べて低かった。

5 家庭との連携

17 運動やスポーツ、生徒の体力に関する家庭との連携(複数回答可)

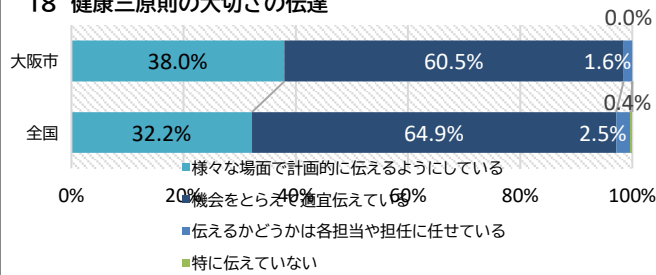


- 1 生徒と家の人が一緒に運動やスポーツをする機会を設けている
- 2 家庭に対して、生徒が運動やスポーツを実施することを啓発するため資料を配布している
- 3 家庭に対して生徒の生活習慣(スクリーンタイムも含む)改善のための資料を配布している
- 4 家の人や生徒に対して地域の運動やスポーツに関する行事に参加するよう促している
- 5 体力に関する調査の結果を家庭に連絡している
- 6 その他
- 7 特に連携していない

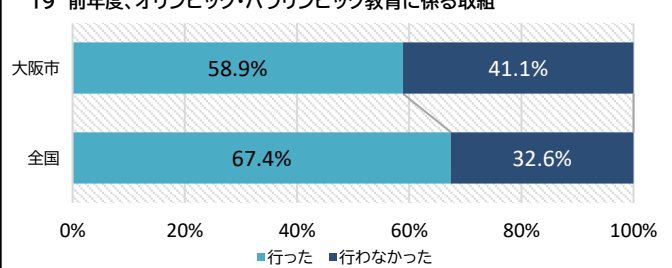
- 運動やスポーツ、児童の体力に関する家庭との連携について、「体力調査結果を家庭に連絡すること」が、全国と比べて割合が高かった。一方、「特に連携していない」割合も、全国に比べて割合が高った。

6 学校における保健体育授業以外の取組について

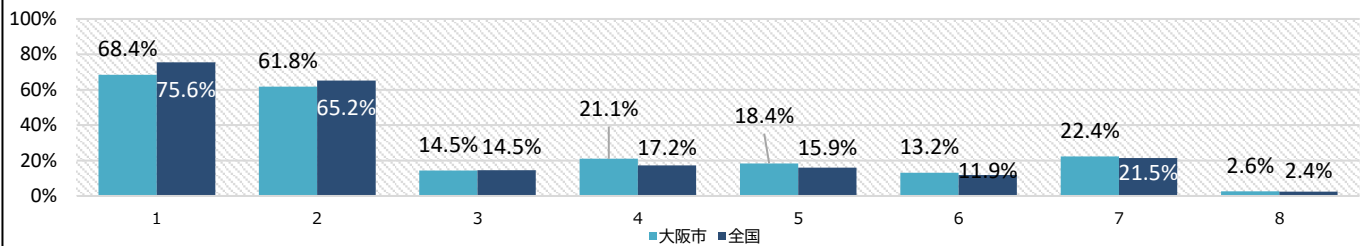
18 健康三原則の大切さの伝達



19 前年度、オリンピック・パラリンピック教育に係る取組



19-2 (Q19で①に回答した学校)行った取組(複数回答可)

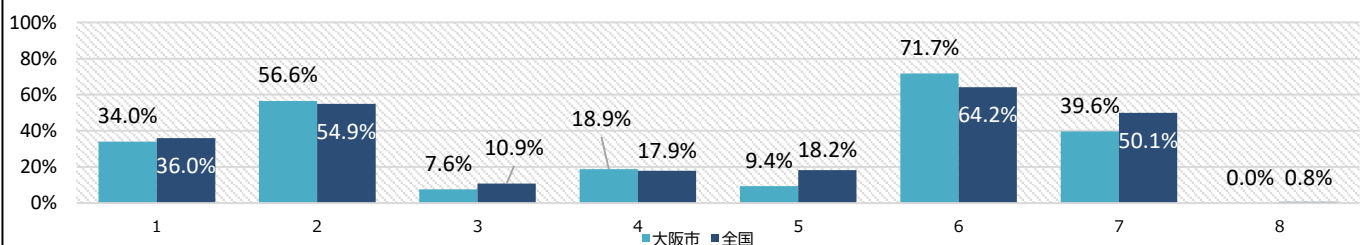


質問19-2 質問19-3 選択項目

- 1 オリンピック・パラリンピックの歴史や意義を学ぶ取組
- 3 参加国・地域の歴史や文化を学ぶ取組
- 5 持続可能な社会について学ぶ取組

- 2 体育理論において、オリンピック・パラリンピックについて学ぶ取組
- 4 共生社会について学ぶ取組
- 6 アスリートによる講演や実技体験等

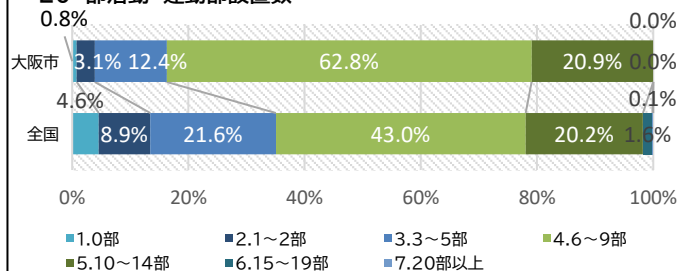
19-3 (Q19で②に回答した学校)行った取組(複数回答可)



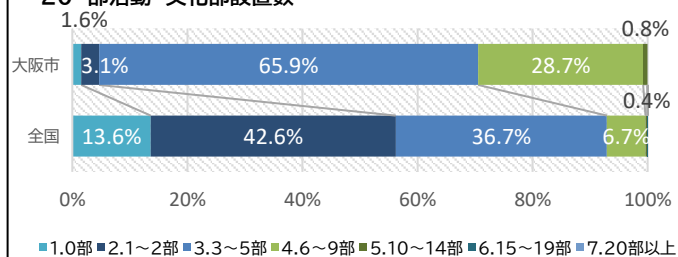
- 保健体育授業以外での体力・運動能力の向上に係る取組及び健康の三原則の大切さの伝達を行っている学校の割合は、全国と比べて高かった。
- オリンピック・パラリンピック教育に係る取組を行っている学校の割合は、全国と比べて低かった。

7 部活動について

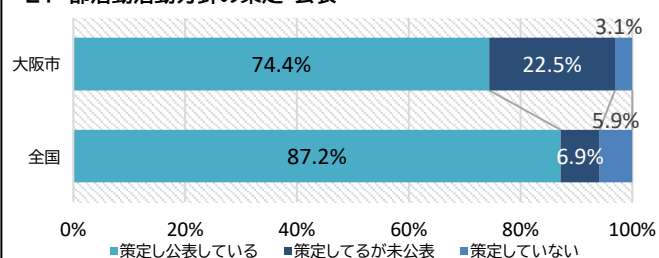
20 部活動 運動部設置数



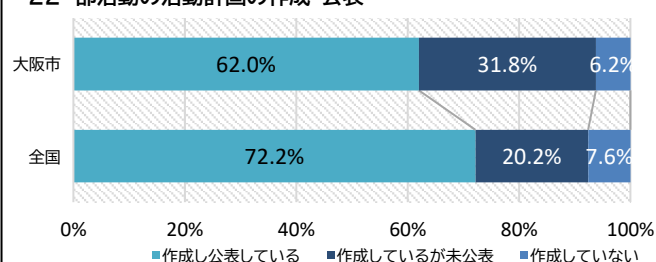
20 部活動 文化部設置数



21 部活動活動方針の策定・公表



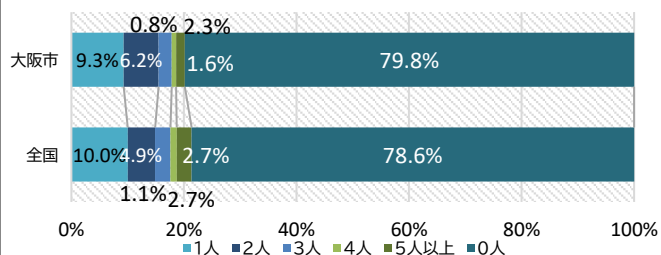
22 部活動の活動計画の作成・公表



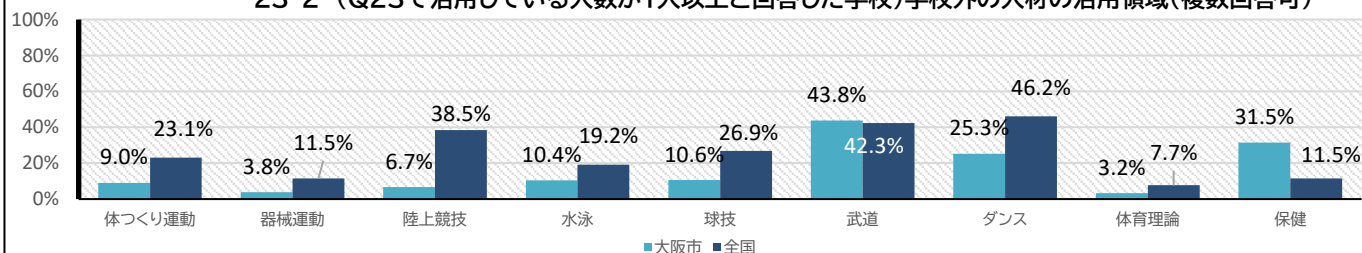
- 部活動の設置において、運動部は「6～9部」、文化部は「3～5部」設置している学校が一番多かった。
- 部活動方針の策定している学校は全国と比べて高いが、「未公表」としている学校は全国と比べて高かった。
- 部活動の活動計画を作成している学校は全国と比べて高いが、「未公表」としている学校は全国と比べて高かった。

8 学校の組織体制(学校の人材、教職員の協働体制など)

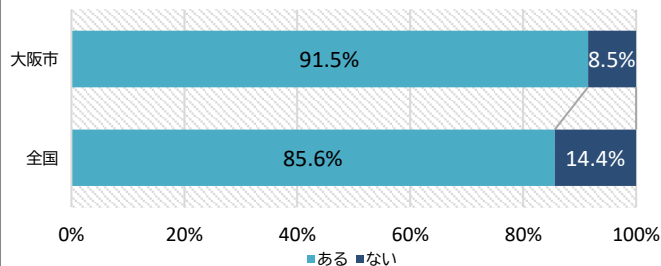
23 学校外の人材の活用人数(予定も含む)



23-2 (Q23で活用している人数が1人以上と回答した学校)学校外の人材の活用領域(複数回答可)



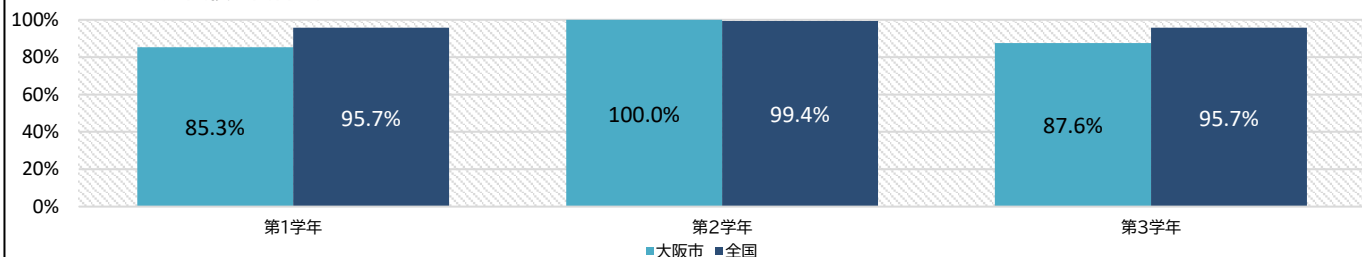
24 教員同士での取組、指導方法の工夫・改善の検討会



- 学校外の人材を活用している学校の割合は、全国と比べて低かった。
- 教員同士の取組、指導方法の工夫・改善についての検討機会が「ある」学校の割合は、全国と比べて高かった。
- 学校外の人材の活用領域において、「武道」「保健」の領域で活用している割合が高い。

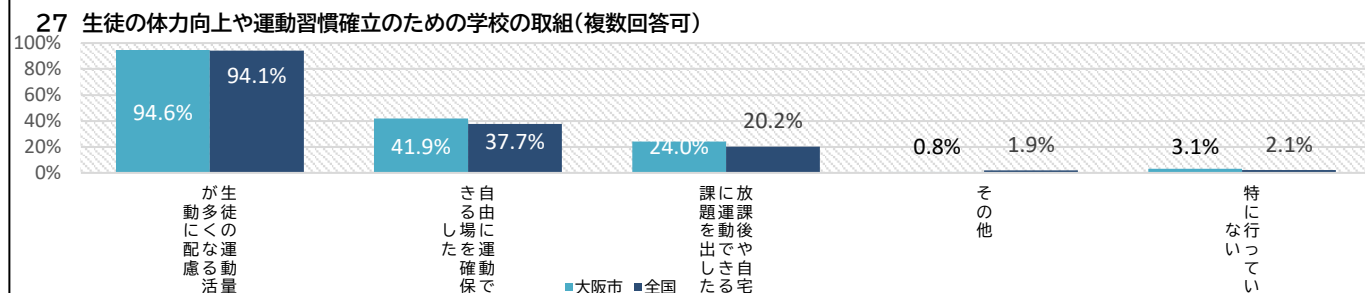
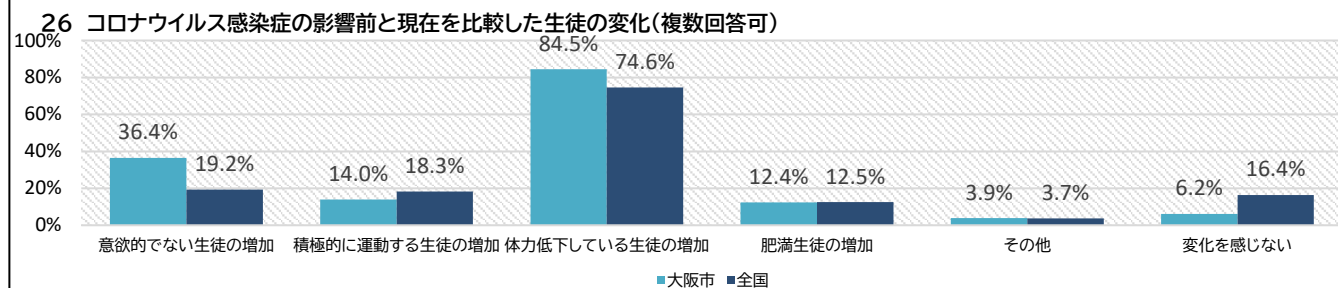
9 新体力テストの実施状況

25 実施学年(複数回答可)



- 各学年において、新体力テストに取り組んでいる学校の割合は、全国と比べて低かった。

10 新型コロナウイルス感染症の影響前と現在の生徒の変化・休業期間終了以降の学校の取組



○新型コロナウイルス感染症の影響前と現在を比較して、「体力が低下している生徒が増えた」と感じている割合が、全国と比べて高かった。

○生徒の体力向上や運動習慣の確立のための学校の取組は、「生徒の運動量が多くなる活動に配慮」したり、「自由に運動できる場を確保した」割合が、多かった。

大阪市子どもの体力づくり強化プラン

『体力』は、人間のあらゆる活動の源です！

体力は、人間の活動の源であり、健康の維持のほか意欲や気力といった精神面の充実に大きく関わっており、豊かな人間性や「自ら学び、自ら考える」といった「生きる力」を支える重要な要素です。

さらに、人間の発達・成長を支えるとともに、生涯を通じて、明るく活力のある社会を維持形成していく基礎となるものであり、より豊かで充実した人生を送るためにも、幼少期から運動する習慣を築いていく必要があると考えます。

将来を担う子どもの体力を向上していくことは、我が国の将来の発展のためにも、重要なミッションです。

★「子どもの体力向上推進委員会」において子どもの体力向上策を検討します

★すべての区において、子どもが運動する機会の提供に取り組めます

- ・大阪市教育委員会では「子どもの体力向上推進委員会」を設置し、学識経験者、PTA協議会、幼・小・中の教育研究会から、委員として参加していただき、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果を踏まえ、子どもの体力等に関する特徴を分析し、体力向上に向けた方策について全市へ示します。
- ・区内すべての小中学校と区が協力して、運動やスポーツに親しむ機会の確保に努めていきます。

具体的な取組

自校の課題を明らかにし、取組を進めるために

1 「学校の概要」や「学校のあゆみ(中学校)」で公表します

○すべての小・中学校で「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」を実施

- ・すべての小・中学校で「学校の概要」を活用し、自校の結果を分析するとともに、成果と課題を明らかにします。
- ・各校において、自校の成果と課題に基づいて「学校の概要」や「学校のあゆみ(中学校)」でホームページに公表し、PDCAサイクルを確立に取り組めます。

○小学校4年生についても「新体力テスト」を実施

- ・すべての小学4年生で、「新体力テスト」を実施し、5年生の調査に向けた継続した取組を進めます。

自主性を引き出し、意欲的に体育・スポーツに取り組むために

2 体育の授業・スポーツ行事を充実します

○幼児期からの体力向上策を検討

- ・幼児教育の充実のために令和元年度に改定された「就学前教育カリキュラム」との関連を図りながら、幼児期からの様々な運動について取組をすすめます。

○指導内容・指導方法の改善

- ・教員が実際に体を動かし学ぶ、「子どもの体力向上実技研修会」を実施し、指導力の向上に努めます。
- ・幼稚園、小学校、中学校の教育研究会と連携をし、効果的な授業の研究をすすめます。
- ・「子どもの体力向上推進プログラム」を SKIP ポータルサイトに掲載することで「子どもの体力向上推進委員会の提言」を全ての学校園で共有します。
- ・子どもの運動意欲の向上を図るために、全市小学校において、体育授業の導入場面や休み時間等に活用できる「シナプソロジー」の取組を進めます。
- ・積極的に体力向上の取組を実践している学校を紹介し、全校園で共有します。

○スポーツの大会への積極的な参加

- ・小学校体育連盟、中学校体育連盟と連携をし、春季・秋季の総合体育大会、総合スポーツ交歓会等のスポーツ大会の充実に努めます。
- ・大阪市や大阪府の主催する事業などの気軽にスポーツを楽しめる事業の紹介に努めます。

運動・スポーツに対する興味・関心を高めるために

3 様々な機関の活用をすすめ、広くスポーツに関わる機会を提供します

○学校・地域・家庭の連携をはかり、子どもが運動やスポーツに親しむ機会を提供

- ・「いっしょにのばそう！ 子どもの体力」（保護者向けのリーフレット）を配布し、保護者や地域の方々と共に子どもの体力向上に向けて取り組みます。
- ・長期休業中や休日等に行われる、地域でのスポーツ行事への参加をすすめます。

○生徒が参加しやすい自主的な活動として、部活動のあり方を検討

- ・中学校における部活動指導体制の充実と教員の長時間勤務の解消を図るため、「部活動指導員活用事業」を実施し、部活動の支援を充実させます。
- ・休日の部活動について、多様な子どもたちが活躍する場を確保するために、地域と子どもが一層つながることをめざし、学校と地域が協働・融合しながら段階的な地域移行を進めます。

○子どもの体力を向上について、区役所や関係機関・関係団体と協力

- ・子どもの体力を向上させるために、子どもが気軽に楽しく参加できる取組を企画・実施します。
- ・一流のスポーツを観戦する機会の情報を提供します。
- ・経済戦略局と連携し、トップアスリートが子どもに指導する「トップアスリートによる『夢・授業』」をすすめます。

いっしょにのばそう！ 子どもの体力



大阪市教育委員会

令和3年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果分析をもとに、大阪市の子どもたちの体力を伸ばすために大切なことをまとめています。家庭・学校園・地域が協力して子どもたちの体力向上に取り組みましょう！

～令和3年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果とこれまでの結果から～

- ◆「朝食を毎日食べる」の割合が年々減少している結果でした。(次頁グラフ1)
- ◆「テレビ、DVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコン等による映像の視聴時間(スクリーンタイム)」では、2時間以上のスクリーンタイムが小学校では4割程度(5人のうち2人)、中学校では8割程度(5人のうち4人)という結果でした。(次頁グラフ2)
- ◆「睡眠時間」が小学校では8時間以上10時間未満、中学校では6時間以上9時間未満の睡眠時間が多く、中学生になると睡眠時間が少なくなる傾向です。(次頁グラフ3)
- ◆「運動部やスポーツクラブ以外で運動する」機会をつくれない児童生徒の割合(あまりしないもしくは全くしない)が、小学校で約3割、中学校で男子約3割5分、女子約5割もいる結果でした。
(次頁グラフ4)

「体力」をつけるためには・・・(令和3年度)

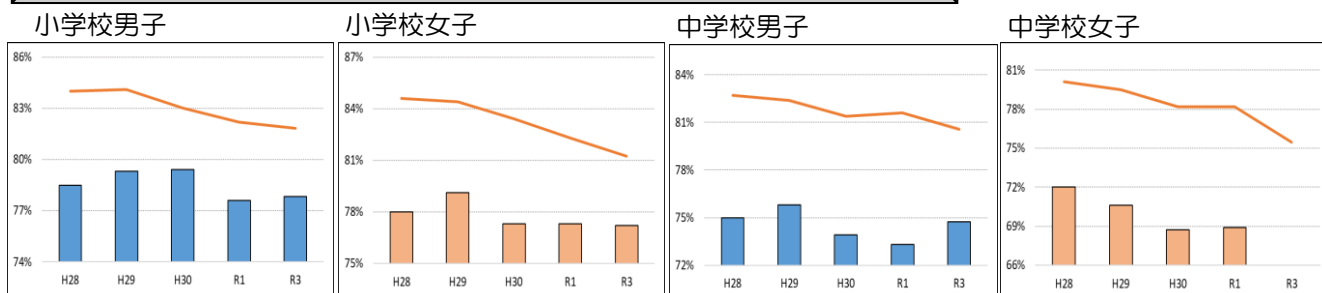
地域や家庭で



子どもたちの健康の保持増進や体力の向上には、大人の関わり方がとても大切です。積極的に関わって、子どもたちの健康や運動への動機づけに取り組みましょう！

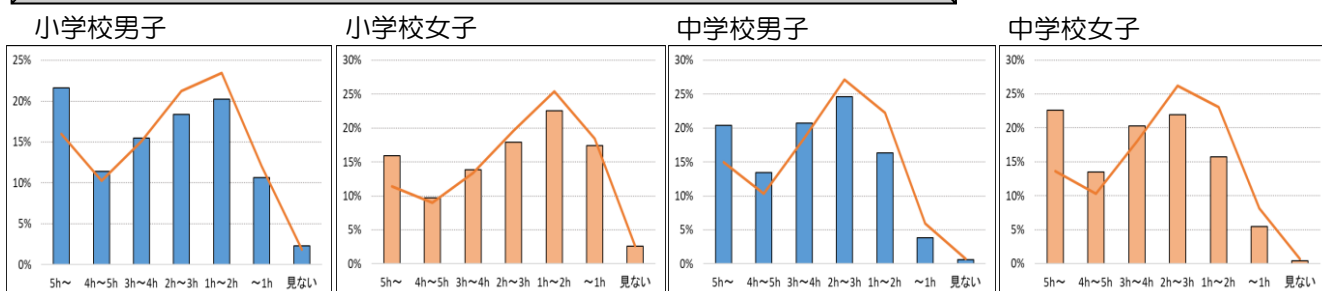
- ☐ **地域や家庭で子どもと一緒に
運動やスポーツに関わきましょう**
 - ・ 大人の関わり方で子どもの総運動時間が変わります
- ☐ **運動・食事・睡眠を大切にする習慣を
子どもと一緒につくりましょう**
 - ・ 運動・食事・睡眠など基本的な生活習慣は大切です
- ☐ **部活動や地域のスポーツクラブ等以外でも、
子どもが体を動かす機会をつくりましょう**
 - ・ 部活動や地域のスポーツクラブ以外でも体を動かす機会をつくることで、子どもの体力が変わります

「朝食を毎日食べる」の経年比較（H27～R1）（グラフ1）



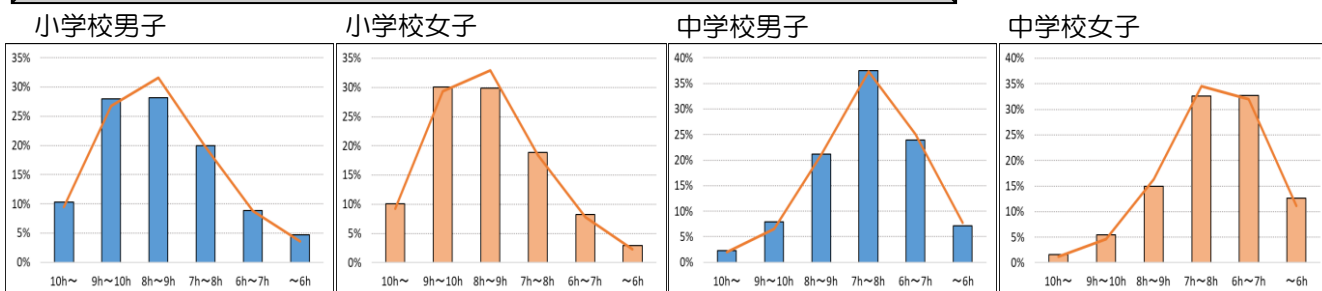
※各グラフの横の折れ線は、全国平均の割合です。

「スクリーンタイム」（グラフ2）



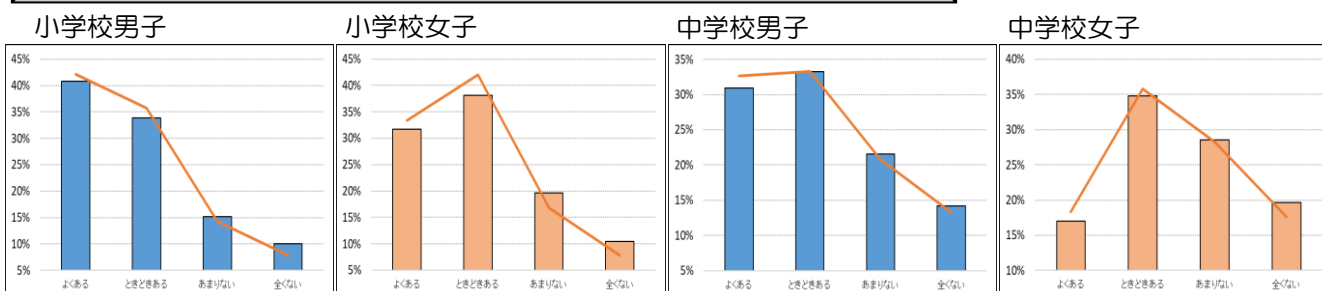
※各グラフの横の折れ線は、全国平均の割合です。

「睡眠時間」（グラフ3）



※各グラフの横の折れ線は、全国平均の割合です。

「運動部やスポーツクラブ以外で運動する」（グラフ4）



※各グラフの横の折れ線は、全国平均の割合です。

家の人や地域の人と子どもと一緒に運動やスポーツに関わるのが大切です。



健康のために「運動」「食事」「睡眠」を大切にするなど、規則正しい生活を意識することが大切です。

子どもの体力は、学校の運動部や地域のスポーツクラブ以外でも運動する機会をつくることで変わります。